

田舎の病院より

(承前)

水野仙子

顧みればもう、なんとなく體からだに異状を覚え出してから一年近くの日が経たつて居ます。健康といふよりも寧ろ頑健ぐわんけんであつた私は、初め病氣を幾らか珍しがつた氣味がないとは言はれません。病氣といふものが、自分の欲する時に快よくなり得られるものでさへあつたならば、確かに時にはしてみたいものでもあるけれど、それが無想むさうしてゐる自己の運命を打破るものとなつては……そこで初めて私の頬は引緊ひきしまらなければなりませんでした。駿河臺するがだいの病院に入つて居た時分じぶんまでは、私はまだ病氣を玩具視おもちゃしして居ました。もう癒なほつた積つもりになつて、病後をぶら／＼遊ぼう、といふよりも、此機會このきやうかいこそ天が私に與あたへてくれたものとして、いよ／＼自分の仕事に着手しよう！ さう思つて寧ろ樂むじんで故郷に歸つて來たんですのに、以後私の體は私の心に一度だつて歸される事なしに、病やまひから病へと渡されて行きました。嘘から出た誠まことのやうに懸念けねんは實際となり、自信をもつてゐた運命に——考へて見ればそれが何の根柢こんていもなく——蝕むじばんで行くのを思つた時、今は休息

を樂むどころの話ではなくなりました。さうして私は病氣に對して反抗を企てました。かうしては居られないと我と我心に宣言して、寢床を蹴つて起上る。けれども其興奮そのは半時はんときと経たぬ間に消滅し、精力は自ら燃やした火に燃え盡つき、疲れて「駄目だ！」と思ふ意識にがっかりして再び寢床ねどこに倒れてしまふのでした。譯わけもなく涙が出て來る。それを眞夏の蠅ぐろうが愚弄する。全く心あつてそれをするものゝやうに、私はとう／＼齒を喰くひしばつてよく泣き出しました。さうして一層そと自分で自分の馬鹿らしさが腹だゝしくなつて、自ら耻はぢつと家人の親切に對して拗ね出すのでした。

尤もつともかうした状態の日は大抵一日だけですみました。其試こころみによつて當分たうぶんは再び心のなごみにその波を納めます。それは鍛鍊たんれんによつて少しづゝ少しづゝ湛たたえられて行く靜しづかなる水です。

其頃、なんとなく心細い心に力を與あたへようとして、殊更にベエトオフエンの傳記でんきを求めて讀みました。併しかしそれは却て私に寂しさを感ぜさせました。何故なれば彼の熱狂的な強さが、彼の受けた戰慄せんりつすべき不幸に同情するよりも以上に私を壓倒あつたう

しましたから。總ての苦惱を噛み潰してゐるやうな彼の怪異なマスクは、晝寢の夢に弱虫の私を睨みつけました。彼はその肉體なり精神なりに迫害と恐怖を感じれば感じたゞけの強さに其戦闘力を擴大くわくだいさせた。さうして彼の天才は不幸に洗はれていよ／＼其光輝そのを増す。何よりも！彼には自信がありました。

私は寂しくなつて巻くわんを閉ぢる。よしや私に幾らかの文筆の才があると、果してどれだけの價値ねうちをそれが持つてゐませう！人としても亦どれだけ善良で有益であり得られませう？かうした消極的な考へが、不自然な事のやうにもなく襲つて來て、何處どこに自分は生を願ふ權利けんりがあるのだらうといふ疑問が私を苦しめ寂さびしませる。さうして私は恐る／＼問とひ且かつお祈りをする。「神様、此世に私が無いよりも有つた方が何かの役に立つでせうか？此この二つを衡はかりにかけて、若し有つた方がいゝといふ方が少しでも重かつたら、どうか病氣をお癒なほしになつて下さい。再び昔の健康にはかへらなくとも、どうか仕事の出來ますだけに！」

さうして私は僅わづかに慰なぐさめられ、落着きを得ます。けれども其答は依然として自分の解釋を通して聞くより

外ほかはなく、私はやはり時々不安でございました。ところが其頃偶然にも私をすつかり安心させた一小事件が起りました。

入力者注…

底本は総ルビですが、ふり仮名は一部のみ残しました。

以下の修正を行いました。

ベエトオフニン↓

ベエトオフエン

底本…讀賣新聞 大正五(1916)年

十二月二十六日朝刊

テキスト入力…小林 徹

公開…平成二十九年十一月四日

リンク…[水野仙子ホームページ](#)